



農業知識広場

農へのこだわり

〜知っててよかった〜

川西 眞次 指導員

(指導販売課 加計駐在)



夏野菜の果菜類の植付けも終わり、生長は順調でしょうか？
花が咲き果実が大きくなるころには追肥をお忘れなく！支柱への誘引も大切です。

「果菜類におけるマグネシウム欠乏」

野菜を育てる上で、チッ素、リン酸、カリの3要素に、石灰(カルシウム)、苦土(マグネシウム)を加えた5要素が特に重要な要素です。

マグネシウムは、リン酸の吸収・運搬を促進し、栄養成長や花芽の形成に寄与します。また、植物の光合成に必要な主要構成要素で、植物の緑である葉緑素を形成する大切な役割を担っており、不足すると葉緑素の形成が衰えて、葉が黄化する一方で、糖類やデンプンを生成する光合成が衰え、生育にも影響を及ぼします。

●マグネシウム欠乏の発生条件

マグネシウム欠乏は多肥による窒素過多、特にカリやカルシウムの過剰で発生することが多く、土壌水分が多い圃場で、湿度や気温が高く日照が不足する場合にも発生が多くなります。

●マグネシウムの欠乏症状

マグネシウム欠乏は、下葉周辺や果実近傍の葉の葉脈間に黄化症状を呈します。症状が軽い場合は葉脈



▲キュウリの葉の葉脈間黄化症状写真
欠乏症は古い下位葉から現れる

▶ トマトの下葉周辺葉の葉脈間黄化症状写真
生育後期に現れた欠乏症▶

●対策

マグネシウム欠乏の対策は、マグネシウムを含む資材を施用します。作物を植える前に石灰資材で土壌pHを調整する時、苦土石灰などのマグネシウムを含む資材を使用します。なお、pHが高い場合は硫酸マグネシウムを使用します。急にマグネシウム欠乏症を呈した場合は、葉面散布資材を早急に散布しましょう。

肥料要素の生理障害は、過剰や不足により発生しますが、温度や天候不順等の気象条件、水分や土質、土壌酸度(pH)などの土壌条件など、さまざまな環境条件が重なっていることが多く、対策は原因を究明することが必要です。詳しくはJA広島市各工場の担当営農指導員にご相談ください。

今月の農作業

地域によっては、田植えが始まっているところも見られます。箱処理剤を散布する時は除草剤と間違えないように注意してください。また、田植え前に初期除草剤を使用する場合は、散布後4日間は湛水状態を保ち、7日間は「落水」や「かけ流し」を行わないようにしましょう。

水管理については、田植え直後は深水として低温から稲を守り、田植え10日後くらいから水温を上げるため、浅水管理を行きましょう。

野菜についても、定植後の気温が低い場合には、トンネルやキャップで保温し、寒さ対策をしましょう。

営農のことに関するアドバイス

営農110番

水稲・野菜・花き・果樹など、農業に関するアドバイスをいたします。

受付：平日 9:00～17:30

本店指導販売課

☎(082)870-5893

※土曜日は9:00～12:00まで対応